

「食品安全とリスクコミュニケーション
国民の理解と信頼と信用を得るかぎ - 米国の観点から - 」

前 Codex 委員会議長 トーマス・J・ピリー博士
(2003/10/28 リスクコミュニケーション意見交換会講演要旨、
講演スライド 及びその和訳は別紙)

食の安全を改善するための手法 ~ リスク分析

「ハザード (危害) 」の定義

リスクを考える際に、重要となるのが「ハザード」である。ハザードとは食品に含まれる生物学的、化学的、物理的な物質で、人体に悪影響を与える可能性のあるものをいう。食品には様々なハザードがあり、ほとんどすべての食品にハザードとなり得るものがある。ハザードに関連するリスクを最小限に抑えることあるいはなくすることが食品の安全を考えることになる。

「リスクマネジメント」「リスクアセスメント」「リスクコミュニケーション」の Codex における定義

「リスクマネジメント」関係者と協議しながら、リスク評価及び消費者の健康保護に関係のあるその他のファクターや公正な防疫慣行促進に関係のあるファクターを考慮した上で、政策オプションを評価し、必要があれば適切な予防管理オプションを選択すること

「リスクアセスメント」ハザードの確認、特性づけ、暴露評価を科学的なプロセスで行うこと

「リスクコミュニケーション」: リスクに関連のある因子、リスクがどのように受け止められているかということ、すべての関係者間で話し合っていくこと。リスクコミュニケーションには対話・相互作用・関係者の双方向のやりとりがある

リスク分析のプロセス

まず最初にリスクコミュニケーションがある。国民が食品安全、ハザード、リスクについてきちんと理解することが必要である。日本においても、国民の理解を速やかに行うことが重要である。これらは、すべての関係者の共通の責任である。このリスクコミュニケーションは最初から最後まで、絶えず行われなくてはならない。リスクコミュニケーションの次にリスクマネジメント、リスクアセスメント、そしてリスクマネジメントと何度もこの輪を循環させるような形で繰り返される事が必要である。

リスクコミュニケーションのポイント

リスクコミュニケーションのゴール

的を射た適切な、意義ある、そして正確な情報を明確かつ理解できる形で全ての関係当事者に提供するもの

リスクコミュニケーションの目的

- ・ 全ての参加者が自覚意識を持って理解する
- ・ 一貫した整合性、透明性の推進・担保
- ・ リスク分析のプロセスの有効性・効率性の担保
- ・ 国民の世論、信頼の獲得
- ・ どこにいても、関心を持つ全ての人間がコミュニケーションに参加できる環境の整備
- ・ 関係強化、協力の強化

効率的なリスクコミュニケーション推進のためのキーポイント

・ コミュニケーションの対象をよく知る

・ 科学的な専門家の参加

・ コミュニケーションの専門知識・能力の向上

・ 責任の共有

・ 価値判断の明確な識別

・ 双方向のコミュニケーション

・ 客観的に正しく理解できるような工夫 (適切な例え等)

リスクコミュニケーターとしての自身の経験から得られたポイント

・ 必ず事実を述べる (わからないことは「わからない」と述べる)

・ 基本原則を提供する

・ 全ての関係者を同等に扱う (同じ基本ルールを適用する)

・ リスクコミュニケーションにおいては合意に至らないこともあるが、理解を深められたかどうか重要である